



広島県立三次青陵高等学校

松田 彬

倉本 聡

植田 奈月

三好 教弘

## ●中国内モンゴル自治区フフホト市での国際交流とゴビ砂漠で植樹ボランティアの体験発表

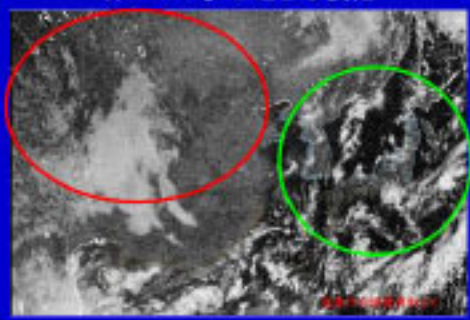
# 砂漠を緑に

— 植林ボランティア活動報告 —

●それでは、「砂漠を緑に」と題しまして、2005年、2006年におこなわれました中国のゴビ砂漠での植林ボランティア活動の報告をします。

●広島県立三次青陵高等学校  
植田奈月、倉本 聡、椿 英典  
松田 彬、三好教弘。

「東アジア」と進む砂漠化



●これは気象庁の衛星写真です。地球の砂漠化は急速に拡大し深刻化する一方で、砂漠化・乾燥化の問題として、緑のまゝで囲んだ日本は、まだ緑豊かな自然環境ですが、赤の丸で示したアジア大陸の内陸では近年急速に乾燥化が進行しています。

### 植林ボランティア活動場所

中華人民共和国  
内蒙古自治区 呼和浩特市  
協力

NPO法人 グリーンハット(GHF)  
代表 元鳥取大学 遠山征雄先生

呼和浩特市人民政府

●海外研修としておこなわれた植林ボランティア活動は、中国内モンゴル自治区フフホト市。そしてNPO法人グリーンハット基金、フフホト市人民政府の協力により実施されました。

研修地



●地図上に赤い丸で表示されている場所が研修先のフフホト市です。

### 目的

1. 中国内モンゴル自治区内のゴビ砂漠の植林活動を通して、地球規模の環境問題を解決する意欲と実践力を培う
2. 国際交流を通して異文化の理解や国際間の協力・友好に対する理解と実践力を培う
3. 社会的に意義のある植林ボランティアに参加することにより、国際化時代における日本の役割や国際社会の向上と発展に寄与する

緑が丘同窓会の「社行式」



### 中国新聞の記事

2005年の報道



2006年の報道  
気持ちも新たに、「緑の親善大使」と「日中間の親善大使」をつとめます



- 海外研修旅行の目的は、植林ボランティア活動を通して地球環境問題への関心を深め解決する。
- 国際交流を通して国際間の協力や友好を進める。
- 国際化時代の日本の役割や国際社会の進展に寄与するとともに、信頼される日本人のあり方を考えるの3点です。
- 今回は砂漠化・乾燥化を防ぐための植林ボランティア活動と中国の砂漠化の現状について報告をいたします。



●これは「きんさい祭り」で三次中央ロータリークラブの皆さんと協力しておこなった砂漠化防止のための募金活動です。協力いただいた皆さんの善意をフフホト市の皆さんへ伝える「緑の親善大使」をつとめ、少しでも植林活動に役立てたいと思いました。



●これは1996年から2001年まで広島県の高中生が中心となって取組んだ植林場所です。油松も1.5mくらいに成長していました。少しでも表土の流出がとまれば、後ろに見える「ガリ侵食」も少なくなると思います。

- 植林ボランティア活動への出発にあたり「壮行式」を開いていただきました。これは2006年の壮行式で緑ヶ丘同窓会会長から挨拶をいただいているところです。



●これはインシャン山脈の乾燥化・砂漠化が進むゴビ砂漠です。山々には樹木はありません。山の尾根が白く見えるのは表土が流されて硬い岩盤が露出しているためです。また谷を流れる河は、降雨時のときだけに流れがあり、普段は水が枯れたままです。



●新たに2002年から広島県の高中生が植林に取り組んでいる場所です。例年より雨量が少なく7月になって草が伸びはじめたそうです。周辺の山々には植林した木以外には樹木はありません。

- 壮行式ではげましの言葉をいただき、緑の親善大使と日中間の親善大使をつとめられるように気持ちを新たにしました。



●インシャン山脈の南に広がる大平原です。ここはかつては豊かな草原だったようですが、農地として開発され20年が過ぎ、土壌の塩分濃度が高くなり、塩害を引き起こしています。表面の塩類集積の起こっている土壌を削り取り復元をはかっています。



●記念碑からフフホトの町を見たところです。町のすぐそばまで砂漠化が進行しています。



## インシャン山脈南端の植林場所



●ここは私たちが2005年と2006年に植林を行った場所です。記念碑から東へ500mほど離れたところにあります。地元の方の協力もあり植林の面積も広がりました。

## 植林活動 1



●これは実際に油松とアンズを植林をしている場面です。土が硬くてとても大変でしたが中国の学生と一緒に協力して植えました。植林をするときには英語、中国語、日本語が飛び交う中で協力しての植林となりました。

## 植林活動 2



●植えたアンズの苗木に水を冠水しているところです。直接、苗に水がかからないようにシャベルにいったん受けまんべんなく周囲にいきわたらせます。

## 植林地にて



## 植林地での交歓交流



●植林活動の休憩時間に両国の生徒が交流をしているところです。テレビ局から取材に来られインタビューにも答えました。

## 植林に使った地下水のpHの調査



●同じ井戸水を利用してCODの調査を行っている所です。CODは科学的酸素供給量を測定する検査です。

## 植林地での記念撮影 2005年



●これは植林地で記念写真を撮ったときの写真です。中心におられるのが団長を務めていただいた関戸校長先生です。

## 2005年に植林した「油松」 2006年8月



●これは2005年に植えた「油松」です。1年たち、中には枯れたものもありましたが緑に見えるように育っていました。

## 呼和浩特市人民政府 『市庁舎玄関』 2005年



●これはフフホト市の人民政府の市庁舎を訪ねたときの写真です。

呼和浩特市人民政府 『表敬訪問』 2005年



●フフホト市人民政府の副秘書長から政府を代表しての歓迎の言葉をいただき、人民政府発行の植林ボランティア活動の証明書を一人ずつ手渡していただきました。また、歓迎の言葉の中で10年前から始まった日本の高校生による植林ボランティア活動が人口253万人のフフホト市の環境政策を変えたと紹介されたときは驚きました。

政府発行の植林ボランティア活動の証明書



●これが2005年の参加者に政府から広島県の高中生による植林活動が始まって10年を記念して発行された植林ボランティア活動の証明書です。

『荣誉证书』(証明内容)



●その荣誉证书の内容です。

「黄河」と「クブチ砂漠」 2009年7月



●視察にいった黄河の北岸から見たクブチ砂漠です。黄河上流域での降雨が減少したため水量が減少しています。雨の減少は乾燥化によるものだと説明がありました。毎年この砂漠の砂が豊かな畑に押し寄せ何百メートルも埋めると説明がありました。

「黄河」



●これは、砂漠の調査をする為に船で黄河を渡っているところです。後ろに見えるのがクブチ砂漠で黄河も近年、降水量が減少し流れる水が減り、中州が出現することもあるそうです。また、ここの黄河中流域は過去60年間で訪れた日本人は千人いないそうです。

クブチ砂漠から黄河の北岸を見る



●砂漠は水の無いところと思っていましたが、黄河の岸辺から始まります。クブチ砂漠から見た黄河の北岸です。植林したインシャン山脈よりさらに乾燥化の厳しいところで連なる山々は表土がむき出しになっています。